
四つ葉 高校1年生編

夜築

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四つ葉 高校1年生編

【Z-コード】

Z5600P

【作者名】

夜築

【あらすじ】

高校生生活で四人組の男女の恋をはじめる

第一章始まりの時 前編

登場人物

松田 飛鳥 まつだあすか

芳田 由美 よ

しだゆみ

千田 紗綾 せんださやか

斎藤 舞 セイ

とうまい

恵山 綾 とくやまあや

清壽 沙紀

はらしんじ

富田 正棋 とみだまさあき

石原 新士 いし

内村 周一 うちむらじゅういち

松本 歩 まつもとあゆむ

笠木 健裕 ささきけんすけ
んいち

吉川 鉄勒 よしか

中島 仁 なかじまじん

吉川 鉄勒 よしか

わてつりお

古隈 洋子 ふぐまよおこ

とわる学校での出合いで物語である。

四月十日（とうとう）の日が来たんだな。（思いつつ新しい通学路を歩いていたら、後ろからドッスンと押されて、後ろを振り返つてみたら

「おはようー」と挨拶されたので「おはよう」と言ひ返したら、同じ中学校で同じクラスになつた、松本 歩だった。

自己紹介が遅れて、私の名前は内村 周一（この学校でいろんな事が、始まりそう・・・。入学式 校庭で、新一年生のクラス分けの紙が張つてあったので、私は、どこにクラスになつたか見てい

たら、歩が「週一はどこのクラスになったの?」を聞いてきたので、「・・・一年A組」と、言って「歩は?」と聞いてみたら、「一年A組」どうやら一緒にクラスらしいので、一緒に歩いて自分たちの席に座つて先生が来るのを待つていた。まわりを覗いていたら、(このクラスは男子と女子が一緒にクラスなんだ。)と、思いつつ席で座つていたときに、いきなりドアが開いて、「皆、席について」と生徒に言つて、入ってきた人が「今日から、このクラスの、担任になりました古隈 洋子と言います。一年間頑張つていきましょう。」と挨拶して、しばらく間があつてそしたら「入学式がありますので、廊下に一列に並んで」と、先生が言って皆がぞろぞろと、廊下に並んで入学式の会場へ行つたのである。

入学式が終わつて、教室に戻つて担任が、「十分間の休憩をとりますので、トイレ以外は、教室から出ないよう。」と、言って担任は職員室の方に行つた。先生が見えなくなつてから、一分経つてから歩が来て「他のクラスは、女子がいるクラスはここと、一年E組しかいないよ。」と言つてもそれがどうした。と思つたときに、男子が一人来てその一人が、「なに喋つているの?」と聞いてきて、歩が「この先どうゆうふうになるか話していたの、あなたたちの名前は?」と聞いたら「富田 正棋と田畠 純一よろしくね。」と紹介してので、こちらも名前を言つて四人で、話していたら、先生が来て「皆、席について今から自己紹介を始めるから」と言つて一人ずつやり始めて二十分掛かつて全員の、自己紹介が終わつた後に、「来週の月曜日から、授業がありますので、時間割表と一学期の予定表を、配りますので、無くさないようにしてください。」配り始めて五分掛かつて配り終えて、「級長と副級長を決めますので、立候補をする人は、いませんか?」と言つて一分経つて、一人の男子が級長に手を上げて、しばらくして、女子が副級長に手を上げて名前は、「級長が石原 新士さん 副級長が斎藤 舞さんで良いですか」と生徒に聞いたら、他の生徒たちから反対もなく決まった。そしたら、先生が「学級員が、決まりましたので、早いですが号令

をかけて、帰りましょう。」と言ひて、級長に号令をかけさしてほかの生徒は、挨拶をしたらすぐに帰つてしまふ人が、いれば少し学校に残つて、生徒同士喋つていてその中に、週一・歩・正棋・純一と他に、女子が一人ほどいて、その子達が四人のところに近づいて、僕たちが喋つているときに、話に入つてきて「アドレスを教えて！」と来たので、とりあえず教えたときに、「名前は？」と聞いたら、「私は、斎藤 舞こぢらは、松田 飛鳥 ようしくね！」と言ひて、仲間に入つてきた子だ。

十五分ぐらいは、喋つていて歩と週一は先に、帰ることを仲間に行つて、先に帰つていつた。帰りがけの途中、来週の登校に関することで、週一から「来週から登校するとき一緒に行かないか?」と提案されたので、歩は「別に良いけど、どこに集合にする?」すぐに、「あそこの公園の、入り口で、いいでしょ。」すぐに決まったので、公園の入り口で別れた。

学校が終わつて、家に着いたのが午後二時をまわつていたので、週一は、交換したアドレスを携帯に、登録していたら・・・・・

土曜日の午前九時をまわつていた、起きてみたらどうやら、登録している最中に、寝てしまいそのままの状態であつた。携帯の画面を見たら、メールが一通も着ていなくて（そりやあ、昨日アドレスを交換したばかりだし、その内に来るだろうじ。）と週一は考えて来週の月曜日の時間割をそろえていつた。そして、そのまま時間が過ぎていつた。

月曜日の朝、何気なく起きたら、（今、何時なのだ）と心の中で思い時計を見たら、午前四時を指す所だつた。（寝られないから、そのまま起きてよう。）と思つた瞬間に、携帯が鳴つて、見たら歩からメールが着た、『朝早くに、メールしてごめん。急に寝られなくなつてね。何しているか送つてみたんだ。』と着て読んですぐに、『別にいいけど、こちらも寝られなくてね。』とそのまま一時間位メールをして周一の方のメールで『公園に、七時四十五分に集合でいいか?』と送つて、少し経つてから『いいよ』と着たので、それ

でメールのやり取りが、終わって時間を見たら五時四十五分で、そのまま起きて、テレビをつけて、FFB局のモーニング+のニュース「この番組は株価・為替・天気・交通情報の専門チャンネルである。」を見ていたら（アナウンサー：今日の天気は、・晴・曇のち雨・・・です。）を見ていたら、折り畳みの傘の準備をしていたら、雨が降り始めて、普通の傘に変えるのが面倒などでそのままにした。ここは吉原市であって、生産・販売や情報・物流の拠点である。

そして、待ち合せの時間が近いから、家を出て公園の入り口に行つたら、歩のほかに舞さんがいて、歩に聞いてみたら「公園で待つていたら、舞さんに偶然会つて一緒に行くかいと、聞いたら「行くと言つて一人で待つていたの。」と言つて教室まで、一緒に行くことになった。学校に着いて、朝のSTまで時間があるので、その間は三人で最初の授業の事や、今後どんな学校生活かを送るか話していたら、他のクラスの人が、「何の話をしているの」と聞いてきたので、「今後の学校生活の話」と言つて、週一が「あなたは、誰ですか？」と聞いたたら「一Bの 笹木 健裕と同じく吉川 鉄勒よろしく」と紹介されたので、こちらも自己紹介をして、そしたら、一Bの二人は教室に帰つていて、入れ替わりに、正棋と純一が来て、「先の人は？」と聞かれたので、先ほどのことを話して、二人とも理解をして、五人で、先ほどの話の続きを話した。十分ほど経ったころ、先生が来て生徒を座らして、号令をかけたあとにSTを、始めて十分で終わつて、一時間目の授業の準備をして、大人しく席に座つて待つていた。

授業の開始を知らせるチャイムが鳴つて、数分経つてから教科担任の先生が来て、級長が号令をかけて、その後に、先生が出席をとつて確認した後に、先生の自己紹介が十五分ぐらい話してから、授業に入った。・・・授業の終わりのチャイムが鳴つて、先生が級長に号令をかけさして、放課になつた。週一・歩・正棋・純一・飛鳥が、教卓の周りに集まつて、休みの間や中学校の時の話ると、

純一が「放課や放課後に、集まつて話し合おうよ。」と言つてそこに、舞が入つてきて「何曜日にするか決めとかない?放課後は、予定などではいれないときが、あるから。」と言つたら「そつしじょう」と決ました。

舞が「こんな感じでいいかしら。」と提案されたので見たら月、火、木、金が放課後で水が放課と放課後で、舞が「集まるときは、昼休みで集まるの」それで、納得したようだ。残りの3時間授業は、最初の時間にやつた授業と一緒に最初に先生の自己紹介が続いた。

やつと、授業が終わつて給食の時間になつて、そうしたら先生が、「廊下に並んで、食堂に行くから」言つて、廊下に並んで「女子が先頭で、男子はその後ろに並んで、」と聞こえたので、そのとうりに並んで、歩・純一・正棋・純一が、固まつて並んで食堂に行つた。食堂に行つた後の、昼放課は歩と週一と飛鳥で、教卓の周りに集まつて何を話すかを決めていると、突然「よくこの三人は、集まつて話してゐるよね。」と健介が話してきて、鉄勒が「何の集まり」と聞いたら、また後ろから「会合」と副級長が言つた。

メンバー表	会長	内村 周一	副会長	松本 歩
齊藤 舞	松田 飛鳥	富田 正棋	田邑 純一	千田 紗綾

鉄勒が、「あんたちは、芋づる方式でいろんな人が来るな!」と言つたら健介が、「万屋つて何?」と言つてそれを聞いた人は、膝がガツクンときて舞が、それを説明するだけで、昼放課が大半なくなつてしまつた。「なにやつてるの?」千田が聞いてきたんで、舞が「特定の話題とかで、話してゐる。」と言つて、「参加する」と言つてから、先ほどの話に戻して、歩が「会合のメンバー表を、これで、作つたけどいいかな。」と聞いたら、純一からなんであんたらが、「会長と副会長に入つてるの?」と聞かれたとき、舞が「この話し合いは、歩と週一が最初にやり始めたからよ。」と言つて、純一も納得して、他の人からも反対が、なく、その場はやり過ごした。そして予鈴のチャイムが、鳴つて、他の子が教室に戻つて來た

ので、

万屋のメンバーは、自分の席に戻つていき次の授業の準備をしていた。

五時間目は普通に授業をやつて、六時間目は特活の時間で、担任が自由に使える時間で、担任がこんな提案を出した「グループを作り、その中でこれから行事に、参加していくください。」と言つて生徒が「一グループ何人ですか」と聞いたら「七・八人ぐらいで」といつた後に、グループを作り始めた。「決まつたら紙に書いて、先生に提出してください。」言つて、グループ決めが始まつた。万屋のメンバーが、週一の周りに集まつてきて「これでいくの?」と正棋が他の人に聞いて、反対が無かつたのでそのまま紙に書いた。そのグループで、会合を繰り返していった。

そして、グループが決まつて五月の中旬頃の月曜日、担任が「明日からテスト週間に入るんで各自で勉強をしてくださいね。」と言つて、次の放課に万屋のメンバーが集まつて「勉強が苦手の人もいるから、学校に残つて勉強をしますか?」会長の呼びかけに、全員が納得したようで、舞が「こんな感じでいいかしら?」と表を他の人に見せたら（月、火、木、金は居残りで水は自習）「水曜日だけは、各自で勉強をして、それ以外の日は学校に残つて勉強をしますよ。」と舞が、言つてそれ以外の人は会長のほうに向いて、「どうしたの?」会長が聞いてきて、副会長が「あなたが決定権を持つていますから。」と補足したら、納得して修正も無くそのまま決行することになつた。そして、週一が「担任に居残りをしてもいいですか?」と聞いたら「五時までは、教室を使つてもいいよ。五時になつたら帰りなさいよ。」と言つて、職員室に戻つていった。

そして、勉強会が始まつた。「わからない教科からはじめましょう」と舞が言つて、純一・歩が、舞に、正棋が飛鳥に、紗綾が週一に教えてもらつていて。しばらくやつていると、突然、綾が「何しているの?」と聞いてきて歩が「勉強会をしているの」と言つたら、「なら私も参加してもいいかしら?」と聞いてきたから、舞が「い

「いよ」と言つて、「純」とやつてくれるかな?」「いいけど」と返してきたので、勉強会が始まつていった。

しばらくすると、「お前たち、そろそろ帰りなさい。」と担任の声が聞こえたので、時間を見たら五時前だったので、勉強会を切り上げて片付けを始めて週一が「歩、一緒に帰ろうぜ」と言つたので「わかった」と言い返して片づけをしていた。全員が、片付け終わったのを見て、会長が「お疲れ様でした。明日も同じ時間から始めるので、よろしくお願ひします。では今日はこれで終わりです。ご苦労様でした。」一同「ご苦労様でした。」「解散」と言つて帰り始めたのである。

学校を出た週一と歩が「テストは大丈夫かな?」と週一がたずねると、歩が「何の為の勉強会なの! 大丈夫だつて」週一に言い返して「確かに 大丈夫だね」と話していると公園前に着いていて、歩が「明日、いつもどおりにここ集合ね」「わかった」週一が言い返して、その日はわかれた。翌朝、いつもどおりに準備をしてから、公園前に行つたら歩と舞が話していたので、後ろに回つて隠れて聞いてみた。舞「・・・周一君とはどんな関係なの?」歩「周一とは、同じ学校のクラス名とだね。」舞「この紙に、書いてあるのが、私のだから。」歩「わかった。後ろにいるのは、分かっているから出でいで。」後ろを見みて「ばれてた」と週一が言つたら「ばれている・何しているの」と同時に言われて、「そうか。舞さんがいるなんて。」舞が「私の家は公園の前だから、家の中から見たら歩がいたから出てきたのよ。」と言つて週一は納得した。三人で、学校に向かつて行つた。

午前中の授業が終わつて、給食が終わつた昼放課に週一の周りに万屋のメンバーと綾が集まつて中間試験に関することと、話していて「高校に入つて、初めての試験だけど皆さんは大丈夫なの?」と歩が聞いてみたら、紗綾と舞「大丈夫!ちゃんと勉強をしているから」それ以外のメンバーは、「苦手の教科が...」と言つて女子陣が口を揃えて「教えてあげるから、勉強をしよ」言つて、一人ずつに

なつて教え合うことになった。綾が「周一と飛鳥、歩と舞、正棋と紗綾、純一と綾でいいかな？」と他のメンバーに言つてきてしぶらぐして「誰も反対する人がいなかつたので明日から勉強をしていましょ。」言い終わつた直後にチャイムがなつてすぐに周一以外のメンバーが、自分の席に座つて次の授業の準備をしていた。

午後の授業が終了しさらに、担任の話しが終わつて、生徒が自宅へ帰るなり部活をしてる最中に万屋メンバーと綾が周一の周りに集まつてきた。会長が「前に決めた二人組で勉強を始めようか。」言つて始まつた。三十分経つた頃に担任が現れて「今から、職員会議とこの教室でミーティングがあるから帰りなさい。」言われたので、荷物をまとめて会長が「明日も同じなので頑張つていきましょう。それでは解散。」廊下で周一、歩、舞、飛鳥が集まつて帰つている最中学校の近くの交差点で、飛鳥が「周一くん、ちょっとといいかな？」呼んで周一が「いいよ。歩、舞さんまた明日」と別れていった。午後五時頃、歩と舞がいつもの公園について「歩、家に帰つてもしっかりと勉強をしてね。」「うん、わかった。ちょっと聞いていいかな」舞が「なに？」「最初に会つたとき名前が」歩」と聞いて女子の子と勘違いをした？と聞いたら舞から「そんなことはないよ。かわいい名前だし勘違いされたつて気にしなくてもいいと思うよ。」「そうだね。ありがとう聞いてくれてまた明日。」「明日ね。」別れていつた同時刻 周一と飛鳥が彼女の家の近くの公園で、「どうしたの行きなり誘つて…」彼女の口から思つてみない言葉が飛び出してきた、「わ わたしとつ つきあつて下さい。」

「いいですよ。これがアドレスだよ。」お互いの顔が紅くなり、しばらくの間沈黙したあと彼女の方から、「しばらく黙つてようね。」「そうだね。また明日」と別れていつた。こうして最初の葉が開いていった。

翌日、早めに登校をした三人は、自分達の椅子を周一の席へ持つて来て、テスト勉強をやり始めた。舞が「テストが来週の月曜日だよ。勉強を頑張つていこうね。」しばらくすると、クラスメイトが

多くなってきたので勉強を切り上げて、歩が「昼放課で」言つてから椅子を戻しに行つた。担任がいきなり来て、「自分の席に戻つて静かに待機して、級長と副級長頼みましたよ。」急いで教室から去つていった。すると、担任が急いで来て「本当に申しあげありません。明後日から中間試験が始まります。日程変更を伝えるのを忘れていました。」生徒から悲鳴のような声がでて、隣のクラスの担任が「どうしたんですか！！」と急いできて「大丈夫なので」ハブニング的なS.Tが終わつて、授業が始まつてノート検査をしての繰り返しで、あつとゆうまの昼休みになつてメンバーが周一の周りに集まつて綾が「今日、明日は各自で勉強をしましようか」言つたとたん全員が賛成をして、そのまま解散となつた。時間は飛んで帰りの時、歩と舞 周一と飛鳥の一組でいつもの処で分かれて帰つて行つた。歩と舞は「あの一人付き合つてるのかな？」舞に聞いたら「何でそう思つたのかな」「イヤーあのふいんきを見たらそうかな」と主つてね。」「そうゆうわりにはうちらだつて変わらないと思うよ。」舞がいって、「そうだよな。黙つてた方が安全だな」その頃すると、担任が急いで来て「本当に申しあげありません。明後日から中間試験が始まります。日程変更を伝えるのを忘れていました。」生徒から悲鳴のような声がでて、隣のクラスの担任が「どうしたんですねか！！」と急いできて「大丈夫なので」ハブニング的なS.Tが終わつて、授業が始まつてノート検査をしての繰り返しで、あつとゆうまの昼休みになつてメンバーが周一の周りに集まつて綾が「今日、明日は各自で勉強をしましようか」言つたとたん全員が賛成をして、そのまま解散となつた。時間は飛んで帰りの時、歩と舞 周一と飛鳥の一組でいつも処で分かれて帰つて行つた。歩と舞は「あの二人付き合つてるのかな？」舞に聞いたら「何でそう思つたのかな」「イヤーあのふいんきを見たらそうかな」とおもつてね。「そうゆうわりにはうちらだつて変わらないと思うよ。」舞がいって、「そうだよな。黙つてた方が安全だな」その頃周一と飛鳥は「あの二人付き合つてるのかな？」飛鳥に聞いたら「何でそう思つたの？」

「うんーあのふいんきを見たらそつかなとおもってね。」「そうゆうわりにはうちらだつて変わらないと思うよ。」飛鳥がいつて、「そうだよな。黙つてた方が安全だな」と同じ事を、考えていた。この事はしばらく先で知ることになる。

いつも待ち合わせより早い時間に、歩と舞が「歩、明日から試験だね。対策をしつかりとしないと」「そうだ…ね、しつかりとね。そういえば、周一は…」「私たちが来るのが、早い」その時「何か呼んだか」突然ろから、「なんか言つたか、あんたらこそなにやつてるんだ。」声をした方に向いたら周一がいて、「何で、こんな時間にいるの?」「歩が聞いたら「学校に早く行つてテスト勉強をするからね。」舞が「そろそろ学校に行こつか。」「そうだね。行きますか」と歩が言つて、3人が学校に向かっていく途中で「おはよー、みんな考へることが一緒だね。」声が聞こえた方に振り向くと、飛鳥がいて歩が「先も同じ光景があつたような気がするんだが飛鳥が「それがどうしたの、気にせずに学校に行こつかよ。」言つて学校に向かつた。

教室に着いたときに、周一が「各自でテスト勉強をしようつか。」と言つた後に無言で、勉強をやり始めた。テストは1日三時間で四時間目は翌日のテスト勉強をするためになつてている。これが二日間続くのが明日から始まるのが中間試験となつてている。

いつもどうりに、授業を受けて昼放課になつたときに、周一の周りに万屋メンバーが集まつて正棋が「テストあけの万屋の集まりを終わり次第に決めないとね。」会長が「確かにそうだね。でも、今はテストが重要だから終わつてから決めような。」綾が「そう言えば周一、飛鳥、歩、舞は朝早くに学校に来て何してるの?」四人が目線をあわせてから、飛鳥が「各自でテスト勉強をしてるの」「そうなんだ。チヨット気になつて聞いてみただけなんだ。」「ならいんだけど。」会長が「そろそろチャイムがなるから解散で、今度の集まりはテストの最終日に集まるのでいいですね。」確認をとつて誰も反対がなかつたので「解散。」午後の授業を受けて、帰りのS

Tの時先生が「明日、ぐれぐれも休まないよ」と、テスト勉強もしつかりと話は以上で、そのまま挨拶をして解散をした。歩の隣に舞が来て「一緒に帰ろうか」「そうだね。」学校を出た頃、周一の隣には飛鳥がいて「どうしたの?」周一は「なんでもないよ。一緒に帰ろうか。」「そうだね。」歩達が出てから、数十分経った時に学校を出て、いつもの公園の所で周一が「明日からテストだけど、どんな感じ」「どんな感じと言われてもね。テストをしつかりするだけだよ。」「そうなんだ。コッチは、ものすごく心配だよ。」「リラックスしないと出来なくなるよ。」しばらく、話してから解散をすることになる。

その頃、歩と舞は、舞の家の中で明日の勉強をしている。歩が「英語と数学のこのところを教えて」舞が「わかった。それと、私ね。世界史と理科を教えて。」「わかったよ。この方がわかりやすいね。」「そうだね。テストの時は教え合いをしようね。約束をして教え合いをしばらく続く。」

テスト当日

歩 周一 舞は、いつもの時間より早くに出て、いつもの処で飛鳥と合流して、学校に着くまで一言もしゃべらずに歩いて、着いたときに飛鳥が「みんな気が立つてるね。」舞が「確かに気が立つてるね。飛鳥ちゃんもテスト勉強をしなよ。」「うん、勉強はするよ。」と言つた後は、朝のSTが始まるまで、クラス全体が勉強をするので担任が驚いて「始めます。」のかけごいで、クラス全体が逆に驚いて始まった。時間が過ぎて初日のテストが終了をして、勉強会終わって帰りのSTが終了した後は、周一と飛鳥は途中までは、一緒にかえつて途中で分かれて行つた。

歩と舞は、舞の家で教え合いをしていた。テスト中は、喋らずのままで最終日まで繰り返した。

最終日のテスト終了後の帰りのST後、万屋メンバーが教卓の周りに集まって、会長が「いつにするかは、決まり次第連絡をしますのでお願いします。解散で」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5600p/>

四つ葉 高校1年生編

2010年12月18日15時09分発行